

南城市シルバー歌声サークル「きらり」 最高81歳、老人ホームを慰問

音楽で人生楽しむ



「春が来た」や「えんどうの花」の童謡を合唱する歌声サークルのメンバー＝3月27日、南城市知念の特別養護老人ホームしらゆりの園

【南城】81歳をトップに平均年齢75〜76歳のシルバー歌声サークルが3月27日、南城市知念の特別養護老人ホームを訪れ、歌と踊りを披露し施設のお年寄りたちを元気づけた。

趣味の音楽を通して人生をエンジョイしようと、気の合った仲間たちが集まって週1回稽古に励んでいる南城市シルバー歌声サークル「きらり」。古謝景進会長らメンバー15人が特別養護老人ホームしらゆりの園（友名孝子理事長）を訪れ、車椅子の入所者やデイサービスの人たち50人余りに出迎えられた。

真栄城早苗さんが指揮し宮城梢さんのピアノで「春が来た」「花」「えんどうの花」を合唱。西川鈴宝さんが日本舞踊を舞い、井上光子さんと儀間朝善さんが琉舞「浜千鳥」をしながらに踊り魅了した。次はみんなで歌おうと「ていんさぐぬ花」「みかんの花咲く丘」「ふる

さと」を続けて合唱し、幼いころを懐かしんだ。80歳の外間賢一さんが威勢のいい声で「達者でナ」を独唱して元気づけ、拍手が送られた。「青い山脈」のあと、宇海野で毎年行われるハーリー鉦を打ち鳴らして氣勢を上げ「だんじゅかりゆし」を「サーサカリユシ」「サーサユハイセ」と陽気に歌い笑顔に包まれた。また、馬をかたどった布を新垣治・しらゆりの園事業課長と男性従業員

員がかぶって会場を回り、盛り上げた。友名理事長は「シルバーコーラスの皆さんが童謡や踊りを共に歌い、拍手を取って喜ぶ姿に元気が戻ってきて素晴らしい」と感謝した。

（知花幸栄通信員）